

2018年3月期決算説明会 2018.5.31

NIPPON YAKIN

日本冶金工業株式会社

本日のアジェンダ

1. 2018年3月期決算サマリー
執行役員経理部長 小林 伸互

2. 足元の状況と今後の取り組み
代表取締役社長 木村 始

〈参考〉 主要データ (連結ベース)

2018年3月期決算のポイント

- ① 2018年3月期の一般材は、国内景気の緩やかな拡大基調を受け需要は堅調。建築関係、業務用厨房等を中心に16年度下期から旺盛な需要が継続。
- ② 高機能材事業部門は、高機能材・高付加価値材共に米国・中国をはじめとした耐久消費財需要が堅調。自動車関係や半導体製造機器等、高強度材の需要が旺盛。
- ③ ステンレス一般材販売価格は、主原料のニッケルやその他原材料、副資材価格の上昇に見合った適正な販売価格交渉に取り組み、値上げを行った。
- ④ 2018年3月期上期収益は火災による影響を受けたが、下期は旺盛な需要にフル生産を維持して応え、前年度比で売上高、経常利益ともに増加を達成した。

損益計算書 連結 概要

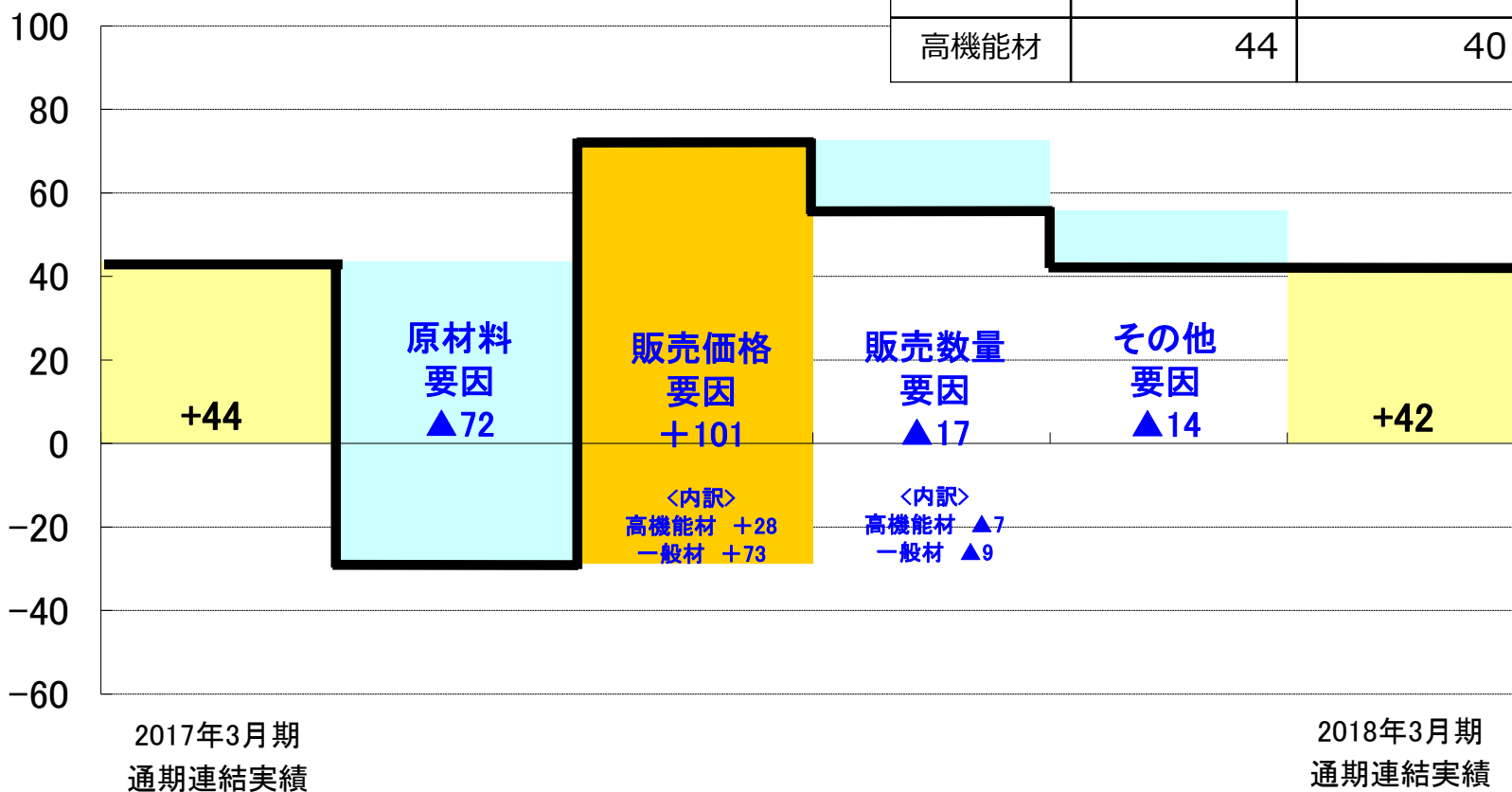
	2017年3月期 通期実績 (億円)	2018年3月期 通期実績 (億円)	前年度比 (億円)	前年度比 (%)
売上高	1,130	1,191	61	5.4
営業利益	44	42	▲2	▲4.2
経常利益	28	34	5	18.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	23	46	22	94.8

(ご参考) ニッケルLME期中平均価格：2017年3月期通期4.56US\$/Lb、2018年3月期通期5.06US\$/Lb。

期中平均為替レート：2017年3月期通期108.38円/\$、2018年3月期通期110.85円/\$。

営業利益変動の要因分析（前年度比較：億円）

販売量 (千ト)	2017年3月期 通期実績	2018年3月期 通期実績
一般材	207	192
高機能材	44	40



貸借対照表 連結 概要

	2017年 3月末 (億円) 【A】	2018年 3月末 (億円) 【B】	2018年 3月末 (億円) 期末休日 影響除く	前期末比 (億円) 【B-A】	2017年 3月末 構成比 (%)	2018年 3月末 構成比 (%)
現金・預金	60	58	(51)	▲3	4.5	3.9
売掛債権	205	228	(224)	23	15.1	15.4
たな卸資産	288	352	(352)	63	21.3	23.7
固定資産	799	832	(832)	33	58.9	56.0
その他資産	4	17	(17)	13	0.3	1.1
【資産合計】	1,357	1,487	(1,475)	130	100	100
借入金及び社債	552	538	(560)	▲14	40.7	36.2
その他負債	436	530	(496)	94	32.1	35.6
【負債計】	988	1,068	(1,056)	80	72.8	71.9
【純資産計】	369	418	(418)	49	27.2	28.1
自己資本比率 (%)	27.2	28.1	28.4			

※2018年3月期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、債権債務の一部について期末日曜日のもものが当連結会計年度期間に含まれております。()内はその影響を除いたものです。

キャッシュフロー計算書 連結 概要

	2017年3月期 通期実績 (億円)	2018年3月期 通期実績 (億円)	2018年3月期 通期実績 (億円)	前年度比 (億円)
	【A】	【B】	期末休日影響除く	【B-A】
営業活動によるキャッシュフロー	84	50	(28)	▲33
税金等調整前当期純利益	28	41	(41)	13
減価償却費	38	36	(36)	▲2
売上債権の増減額 (△は増加)	▲3	▲23	(▲18)	▲20
たな卸資産の増減額 (△は増加)	▲4	▲63	(▲63)	▲59
仕入債務の増減額 (△は減少)	18	59	(38)	41
法人税等の支払額	▲2	▲6	(▲6)	▲4
その他	8	6	(0)	▲2
投資活動によるキャッシュフロー	▲30	▲29	(▲35)	2
有形・無形固定資産の取得による支出	▲30	▲27	(▲33)	3
その他	▲0	▲2	(▲2)	▲1
フリー・キャッシュフロー	53	22	(▲7)	▲31
財務活動によるキャッシュフロー	▲42	▲25	(▲3)	18
借入金及び社債の純増減額 (△は減少)	▲33	▲14	(7)	19
その他	▲9	▲11	(▲11)	▲1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	11	▲3	▲9	▲14

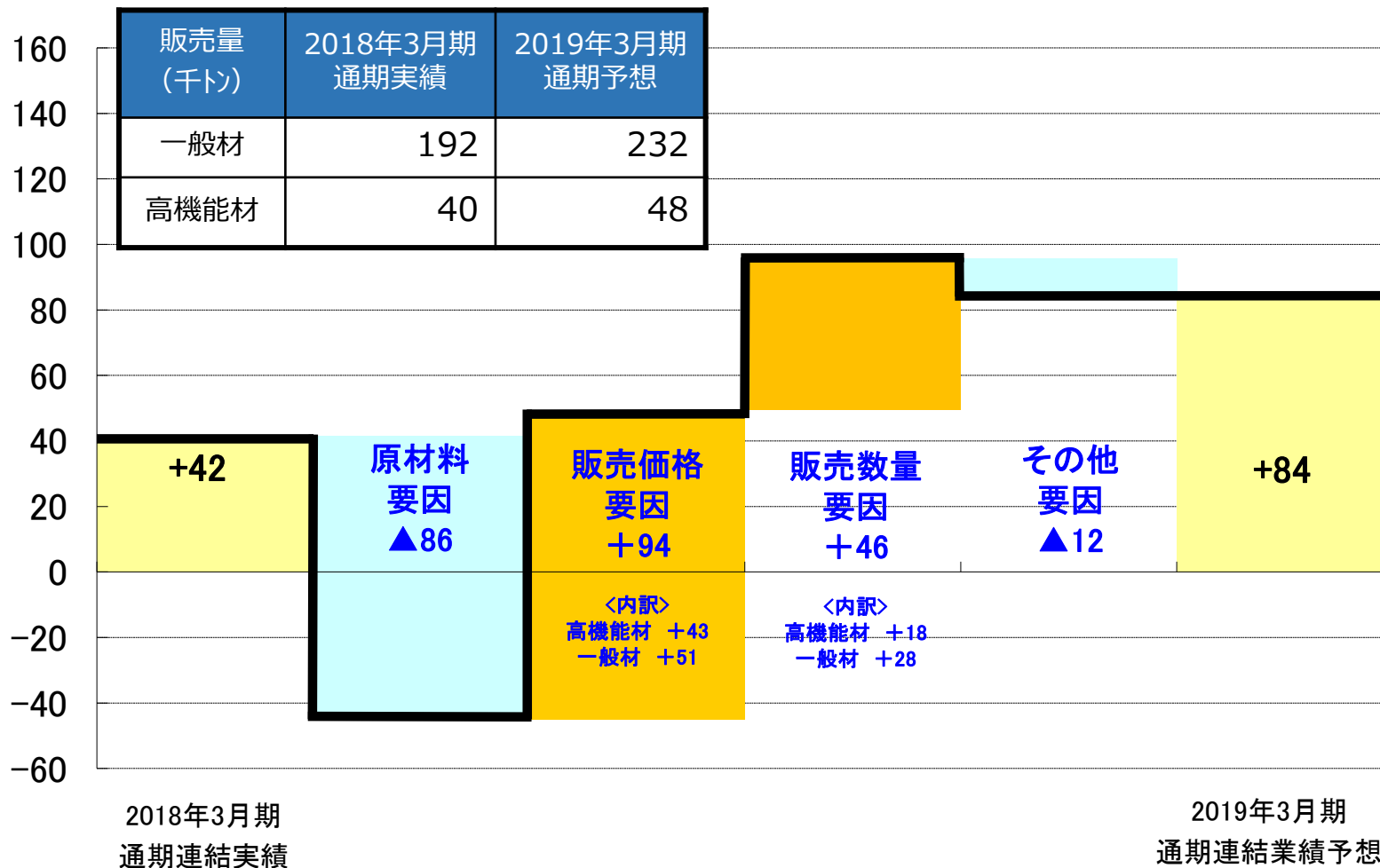
※2018年3月期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、債権債務の一部について期末日日期日のものが当連結会計期間に含まれております。()内はその影響を除いたものです。

2019年3月期連結業績予想（前年度比較：億円）

	2018年3月期	2019年3月期		
	通期連結実績 (億円)	【5/8公表】 通期連結 業績予想 (億円)	前年度比 (億円)	前年度比 (%)
売上高	1,190	1,420	229	19.2
営業利益	42	84	42	101.5
経常利益	34	68	34	100.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	46	55	9	20.2

2019年3月期ニッケルLME想定平均価格：6.50US\$/Lb、想定平均為替レート：106.00円/\$。

営業利益変動の要因分析（前年度比較：億円）



本日のアジェンダ

1. 2018年3月期決算サマリー
執行役員経理部長 小林 伸互
2. 足元の状況と今後の取り組み
代表取締役社長 木村 始

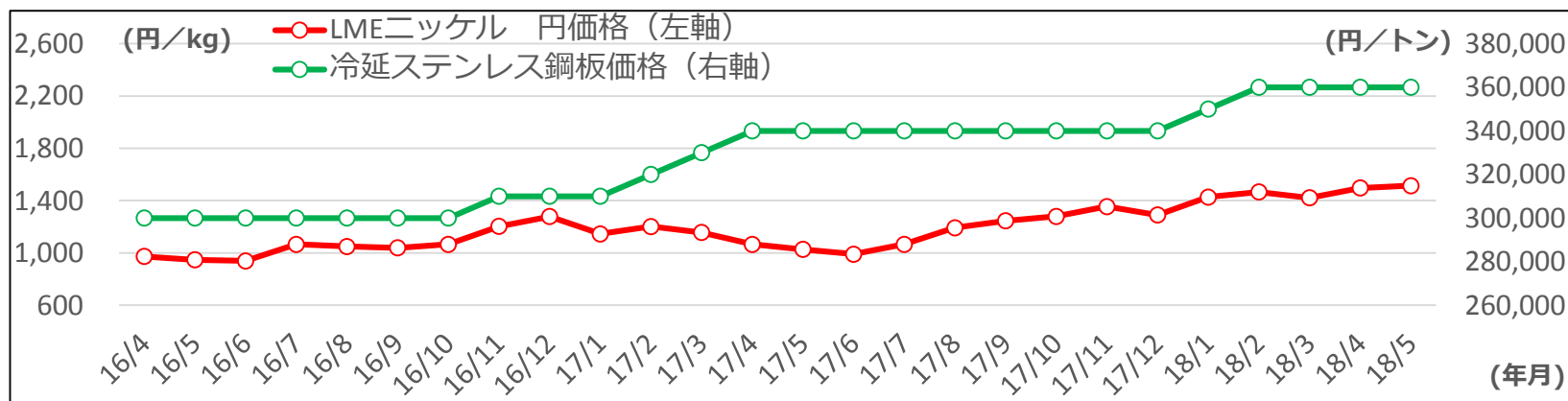
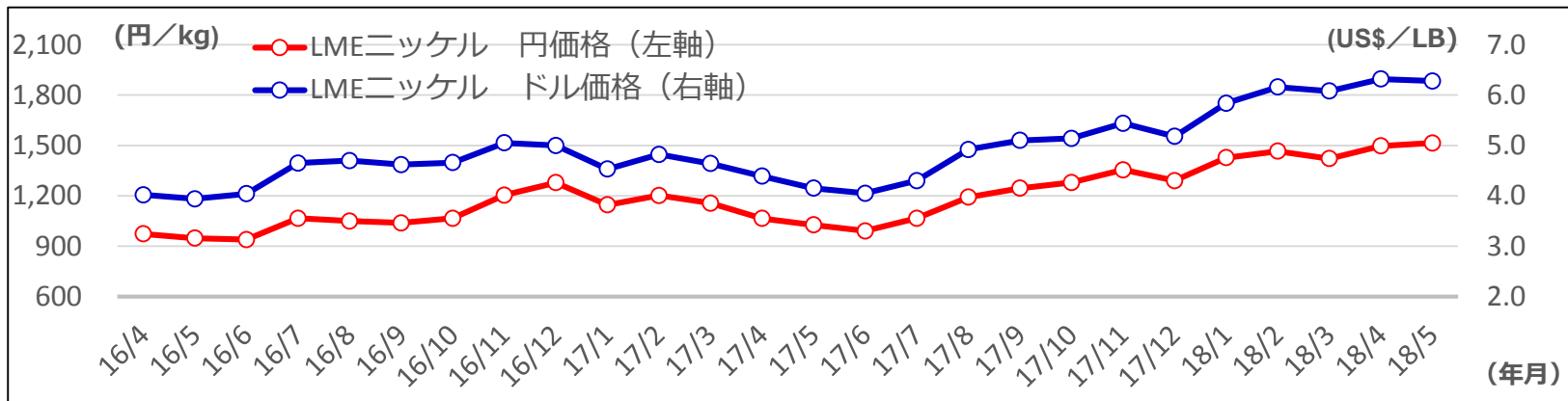
〈参考〉 主要データ (連結ベース)

ステンレス一般材の状況

	前年度下期	今年度想定
国内	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 上期から引き続き建築関連、業務用厨房等の需要が好調、活況となった ▶ ニッケルやその他原材料、副資材の価格上昇に見合う適正な販売価格交渉に取り組み、値上げを行った ▶ 輸入材は国内材との住み分けはできているものの、流入量が以前に比べ多い状態で推移した 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 上期は需給バランス適正化を背景に調整局面の様子 ▶ 下期は需要期となるため、公共工事等の需要盛り上がりを期待 ▶ ニッケル価格やクロム、副資材等のコストの更なる上昇を想定、引き続き適正な販売価格の交渉に努める
海外	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 中国メーカーの生産過剰による供給過多でアジアマーケットでの過当競争の状態が継続 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 国内向け生産を優先し、為替・原料価格を見ながらの慎重な営業活動を続ける

ニッケル・ステンレス価格の推移（月次）

- LMEニッケル価格は17年2Qから上昇を続けた
- ステンレス鋼板価格は需要好調やニッケル等原材料価格上昇を背景に値上がり

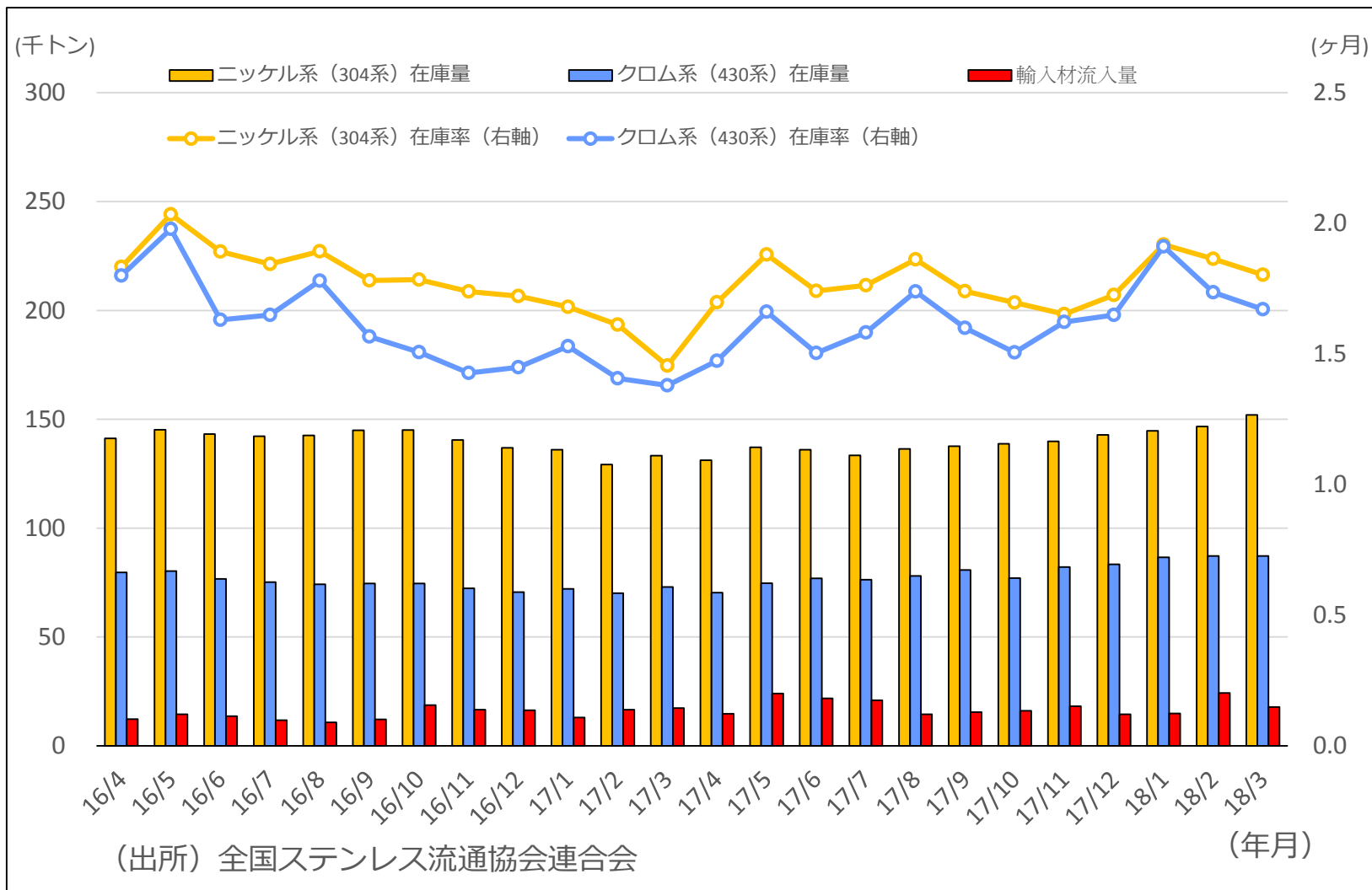


(注1) 冷延ステンレス鋼板：東京SUS304種18-8、2.0ミリ。

(注2) 2018年5月価格は冷延ステンレス鋼板は直近、ニッケル価格は5/11までの平均。

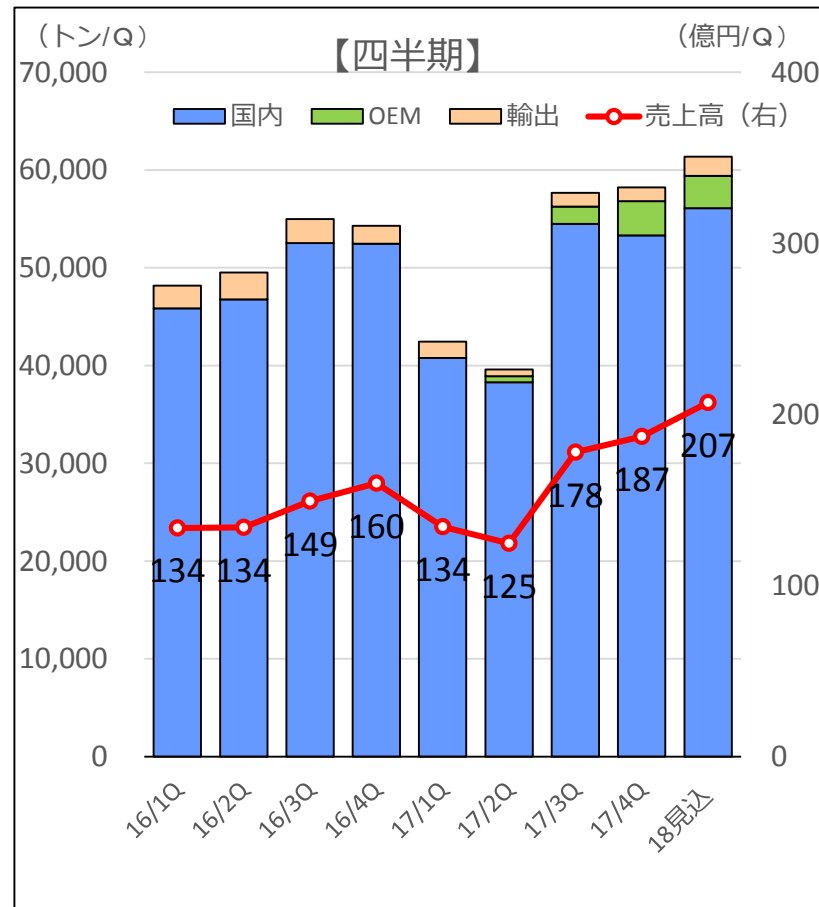
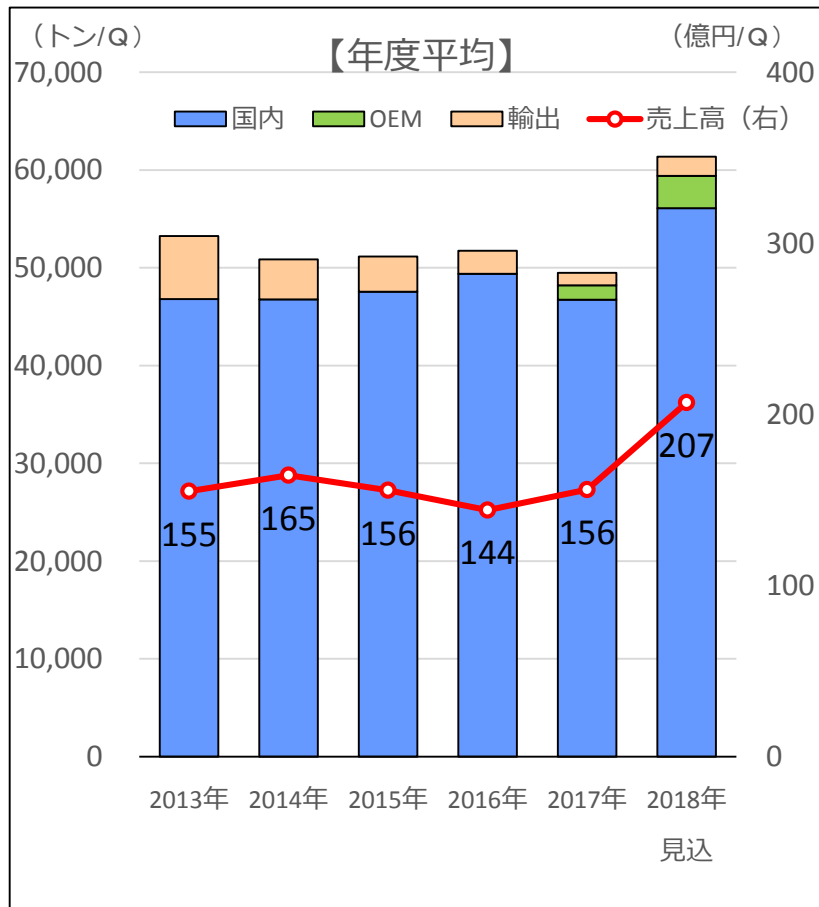
(出所) 鉄鋼新聞。

ステンレス（ニッケル系・クロム系）在庫の推移



販売量及び売上高《ステンレス一般材》

- ▶ 国内需要好調、17年下期はフル生産を維持して火災影響による販売数量減少から回復
- ▶ 18年の販売数量は17年下期から引き続き堅調に推移する見込み

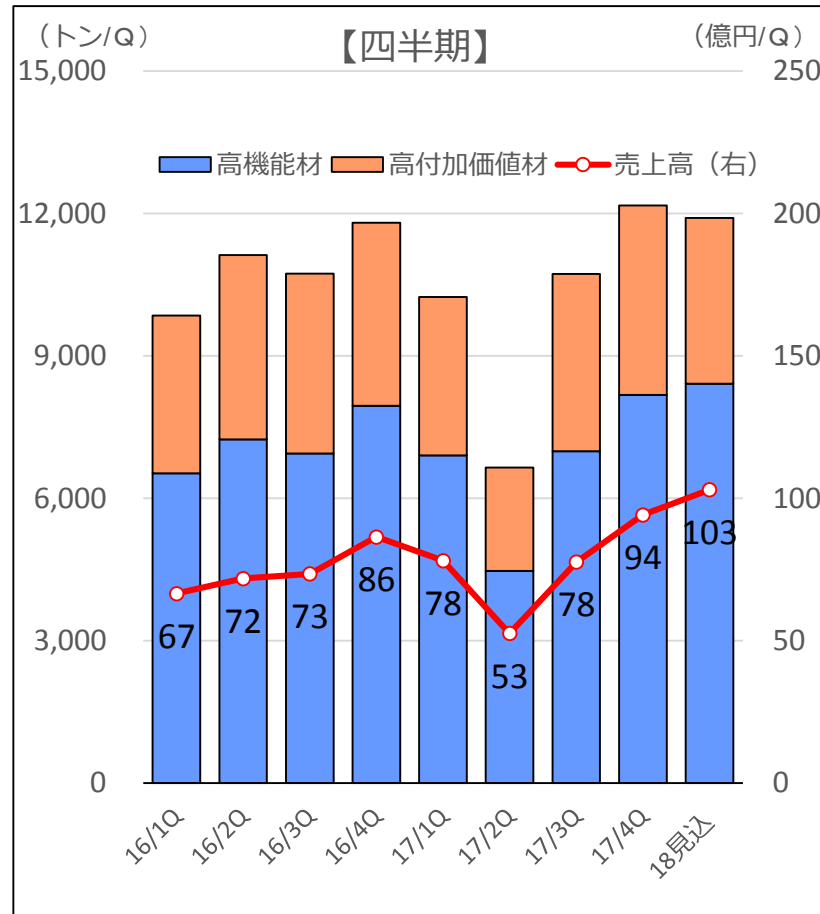
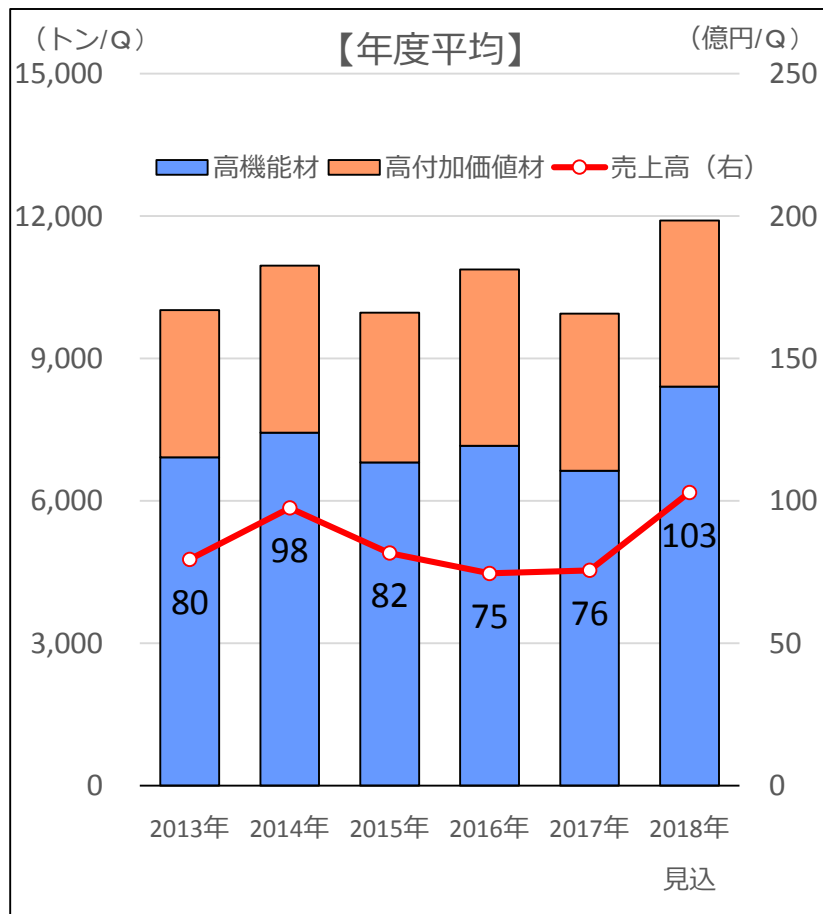


高機能材部門の状況

	前年度下期	今年度想定
国内	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 高機能材は自動車関係や半導体製造機器等の需要が旺盛、耐食オーステナイト鋼や高強度材の需要増加 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 国内高機能材部門需要は自動車関係等を中心に間接輸出部門の需要が旺盛、前年度に引き続き堅調を想定
海外	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 高機能材主力のシーズヒータ材は好調、有機EL関連や高強度材の需要が増加 ➤ 韓国・インド・東欧などで環境・エネルギー関連需要が増加傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 海外高機能材需要は前年度に引き続き旺盛で、足元受注は好調 ➤ 原油相場上昇を背景に石油・ガス関連プロジェクトが一斉に動き出して引合い増加、本格的な需要回復を見込む

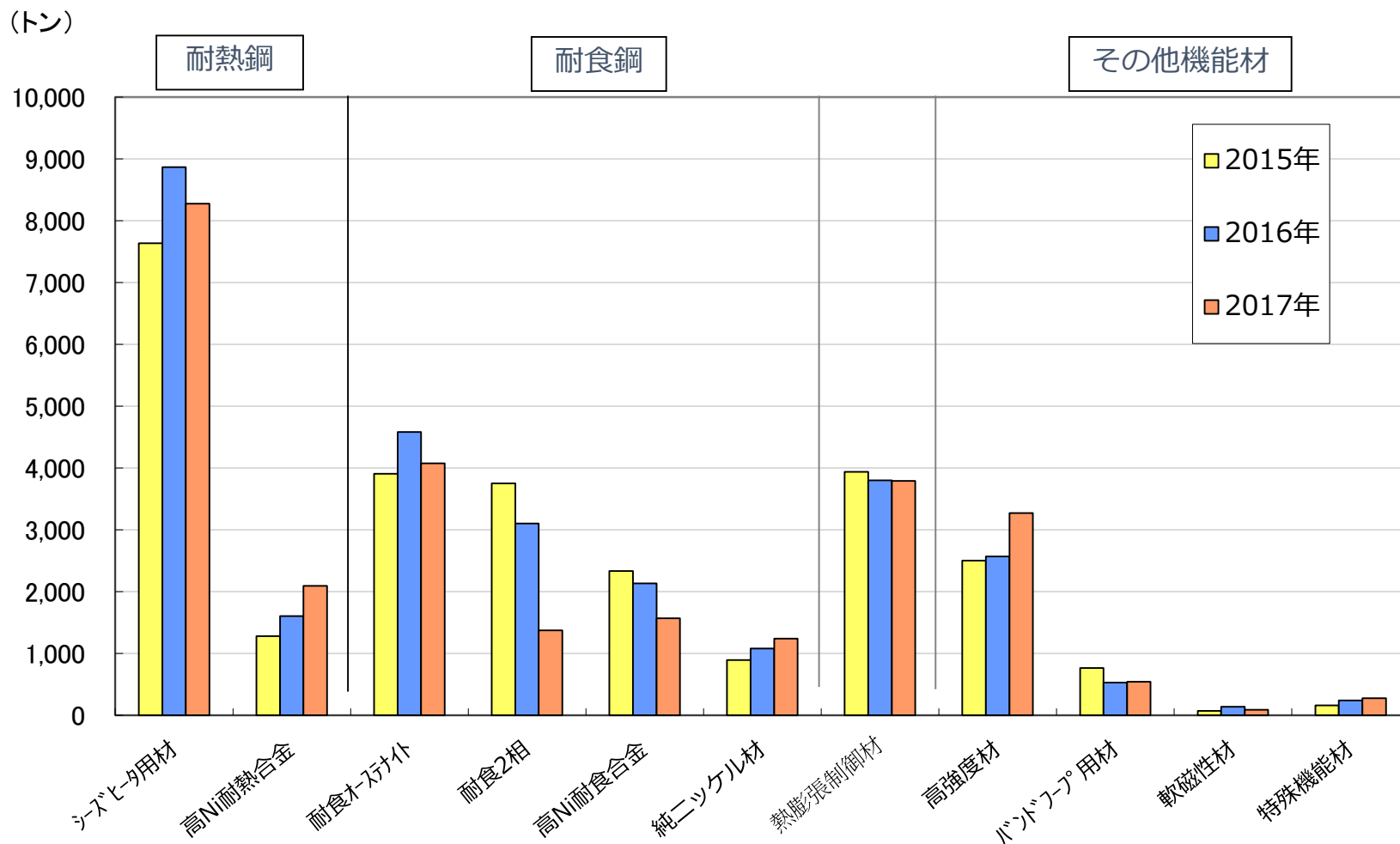
販売量及び売上高《高機能材部門合計》

- 17年は需要堅調の中、火災による生産減少影響により前年度比で販売数量減少
- 18年の販売数量は、17年4Q並の高水準での推移を見込む



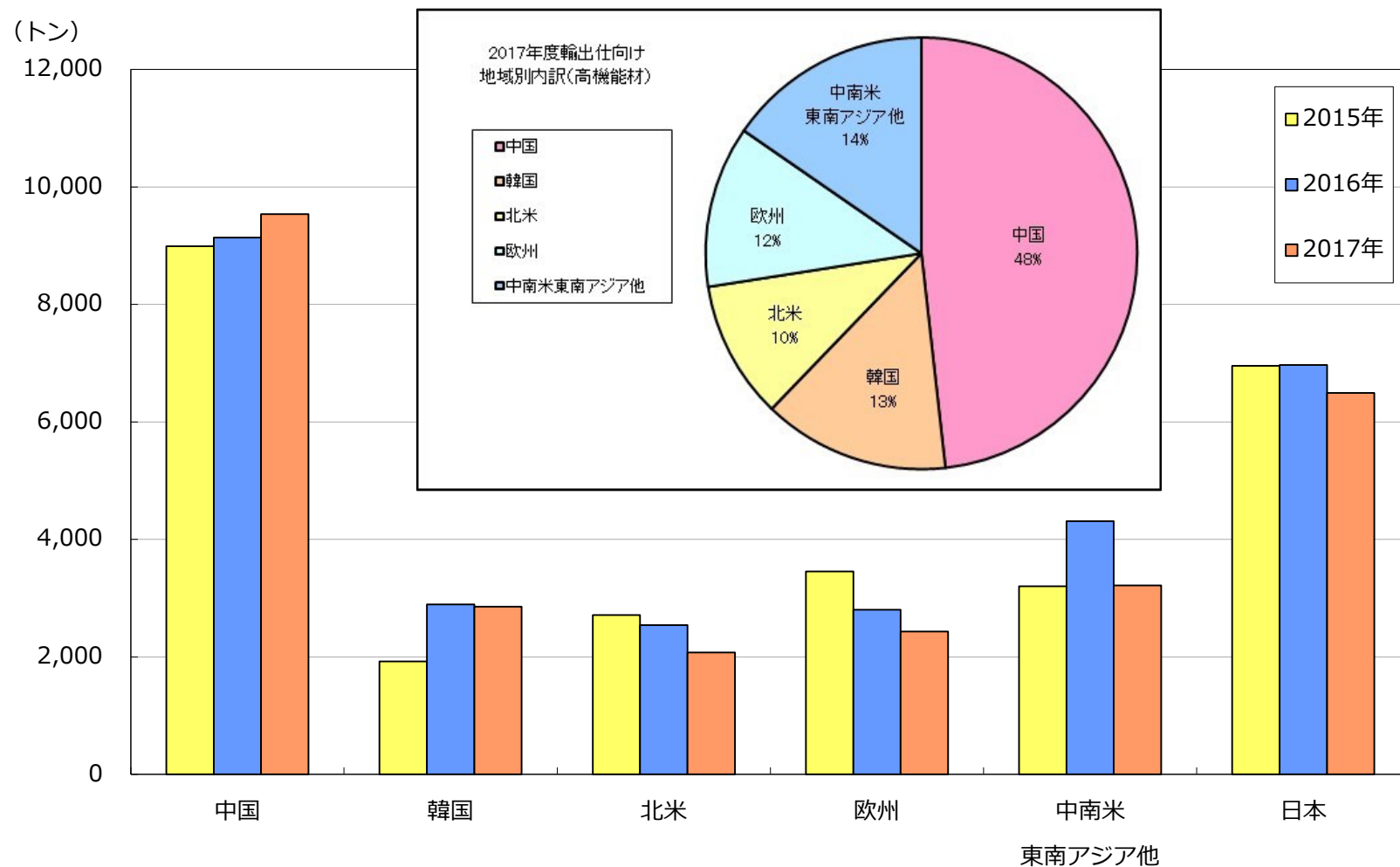
高機能材の分類別の推移（販売量）

国内・輸出共に高機能材需要は堅調、火災による一時生産停止影響で販売数量減少



高機能材の仕向け地別推移（販売量）

➤ 中国は需要増加傾向、韓国は有機 E L 製造向け材料が好調



中国における合併会社営業開始のお知らせ

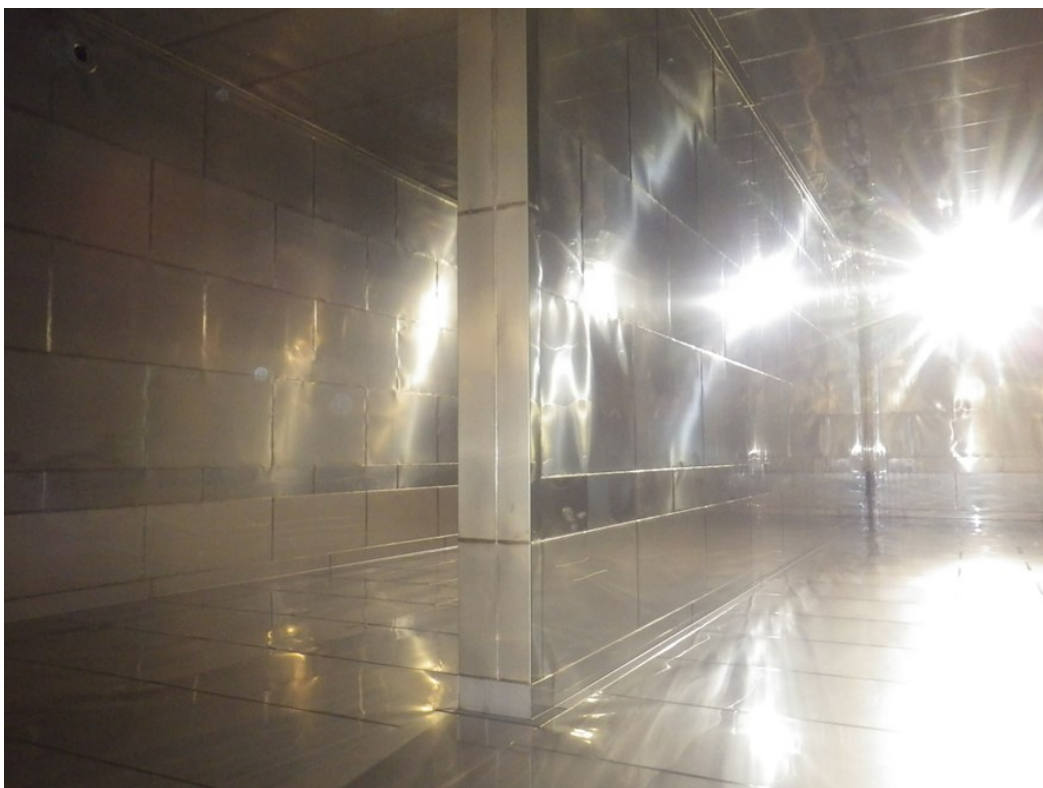
平成30年1月16日に営業を開始



合併会社概要

- (1) 名称 南鋼日邦冶金商貿（南京）有限公司
- (2) 所在地 中国江蘇省南京市浦口区浦洲路 35 号
- (3) 資本金 10 百万人民元（約 167 百万円）
- (4) 出資比率 日本冶金工業 60%、南京鋼鐵股份有限公司37%、
江蘇三鑫特殊金属材料股份有限公司3%
- (5) 董事長 王昆（当社常務執行役員）
- (6) 事業内容 高機能材の仕入販売委託圧延・委託加工、技術及び品質保証サービス

浄水場配水池ステンレス鋼ライニング



京都市蹴上浄水場の配水池の施設更新にあたり、衛生的でメンテナンスフリーとなるステンレス鋼の全溶接内張り構造を取り入れ、上水の蒸発・結露で殺菌用次亜塩素酸の濃縮環境となる上部部分に一般的なSUS304より耐食性の優れるNAS64が採用されました。



第1高区配水池

【使用鋼種】 NAS64

【特徴】 腐食耐性（殺菌用次亜塩素酸）

配当について

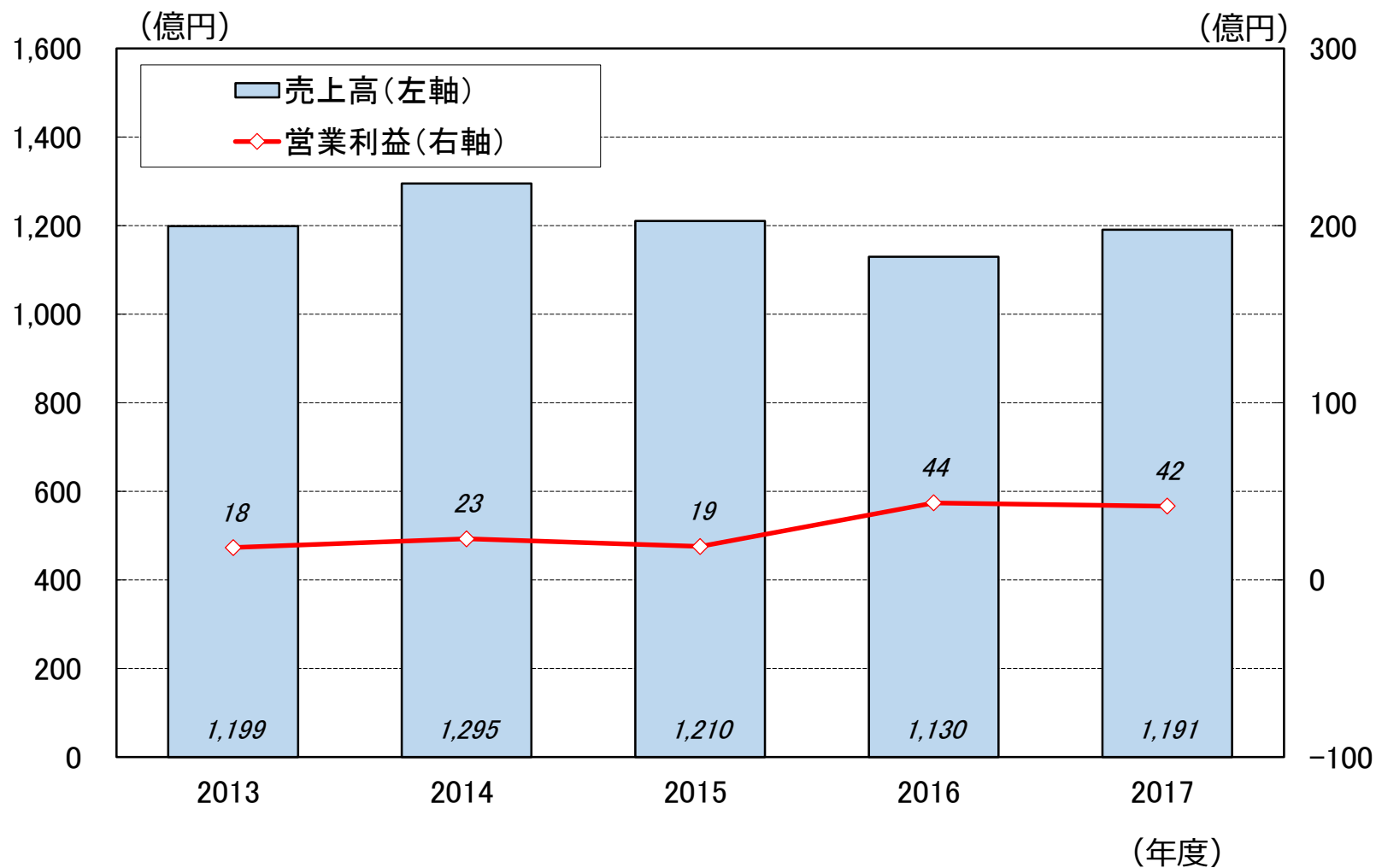
- 2018年3月期末の配当予定
（一株当たり） 4円
- 2019年3月期の配当予想
（一株当たり） 中間3円・期末3円、合計6円

本日のアジェンダ

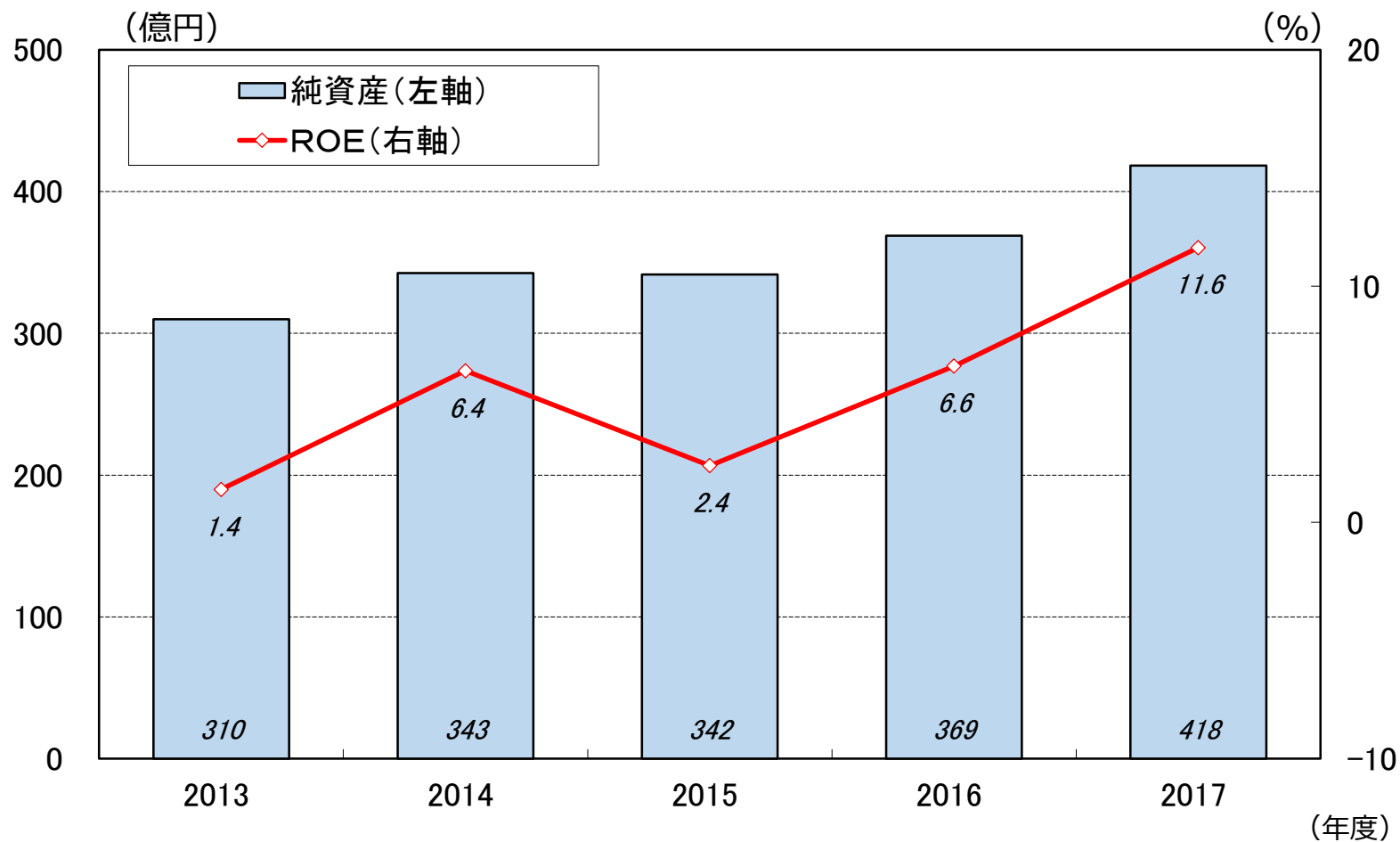
1. 2018年3月期決算サマリー
執行役員経理部長 小林 伸互
2. 足元の状況と今後の取り組み
代表取締役社長 木村 始

〈参考〉主要データ（連結ベース）

売上高・営業利益

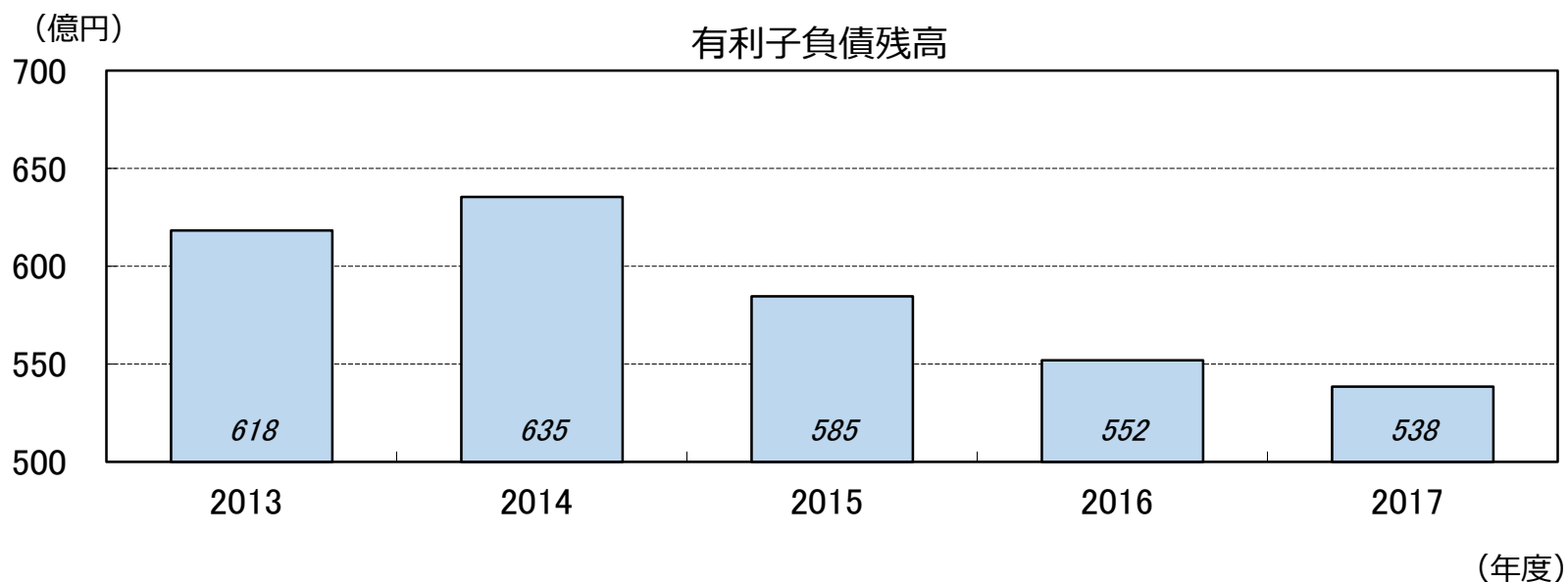
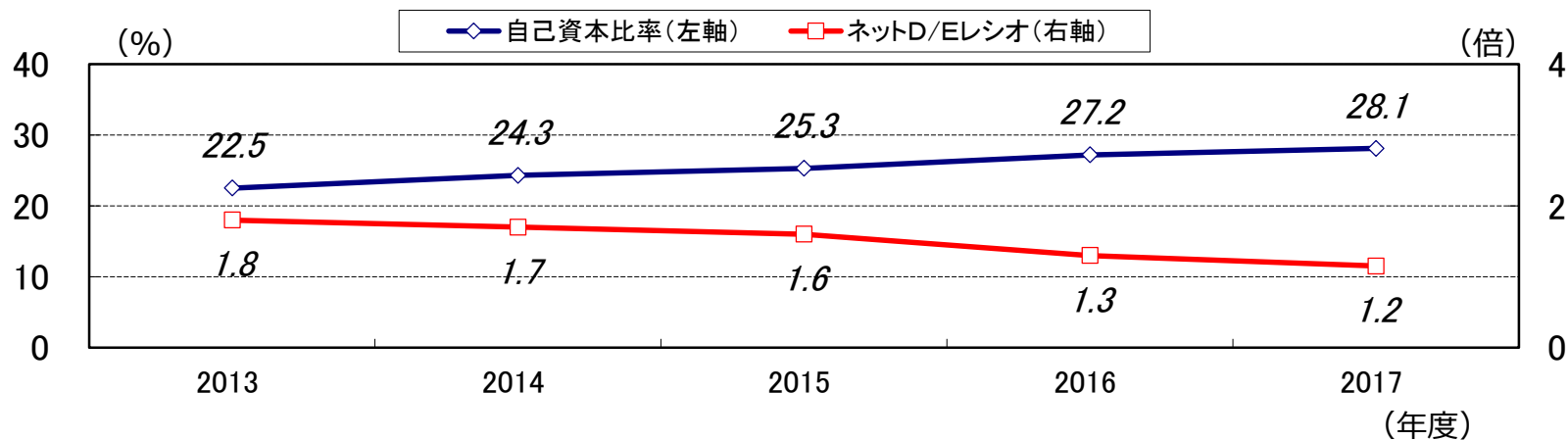


純資産・ROE

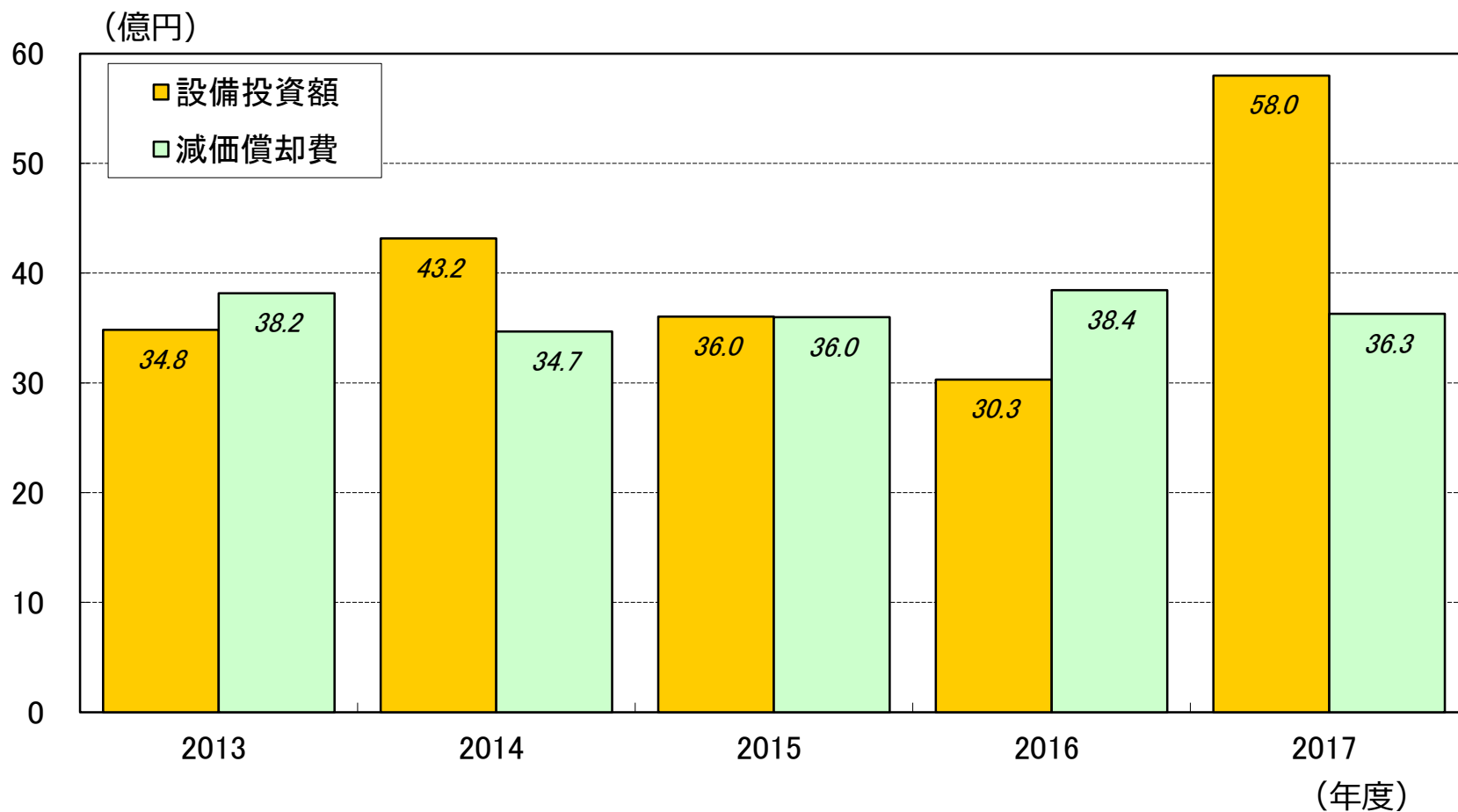


(注) ROEは、当期純利益／期初・期末平均純資産

有利子負債残高と自己資本比率、ネットD/Eレシオ



設備投資（連結ベース）



歴史あるステンレスメーカーから新しいステンレス特殊鋼メーカーへ
～そして競争力No.1の高機能材メーカーへ～

日本冶金工業

本資料のいかなる内容も、弊社株式の投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料に掲載された計画や見通し、予測等は、現時点で入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。

万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切の責任を負いかねますので、ご承知下さい。

【本件に関するお問い合わせ】

日本冶金工業株式会社 IR事務局

T e l . 03-3273-3613 /

E-M A I L . irjimu@nyk.jp